

日本学術会議



科学・公益・社会—情報発信のあり方を考える—

主催

日本学術会議総合工学委員会・機械工学委員会合同計算科学シミュレーションと工学設計分科会

共催

JACM (Japan Association for Computational Mechanics)、アジア太平洋計算力学連合、国際計算力学連合、日本自動車技術会、日本物理学会、日本応用物理学会、日本数学会、日本航空宇宙学会、日本バイオインフォマティクス学会、情報処理学会、日本社会学会、日本気象学会、日本機械学会、日本応用数理学会、日本計算工学会、日本シミュレーション学会、日本算数理工学会、日本海洋学会、東京大学原子核科学研究センター

開催趣旨

社会的影響の大きな問題での科学者からの情報発信の抱える課題が2011年の震災と福島原子力発電所事故をきっかけとして浮き彫りとなった。特に計算科学はSPEEDIをはじめ、国民への情報発信が大きな不信感を持たれたと同時に、計算能力の増大に伴う影響力の増大も顕著である。またエネルギー・原子力、気象、医療など国民のための公共的な現業組織にしばしば指摘される「ムラ構造」も、国民の目から見た科学情報を考える上で見過ごせない問題である。科学者からの自立的な情報発信はどうあるべきなのか？計算科学のケーススタディをきっかけに、より広く先端科学と情報発信について科学者の側から考え、学術会議全体にも問題提起をする場とする。

日時：平成25年6月21日（金）10：00～18：00

場所：日本学術会議講堂（東京メトロ千代田線「乃木坂」駅5出口

「参加ご希望の方は、参加自由ですので、直接会場へお越しください。

特に、事前のご連絡は必要ありません。」

プログラム

- 10：00 開会挨拶
大塚孝治（学術会議連携会員、東京大学教授）
- 10：10 講演1 「学術会議小委員会の議論を踏まえて：問題提起」
今田正俊（学術会議特任連携会員、東京大学教授）
- 10：40 講演2 「エネルギー・原子力分野からの情報発信」
田中知（東京大学教授）
- 11：00 講演3 「不確実性を含む予測情報を原子力防災にどのように役立てるか？」
岩崎俊樹（東北大学教授）
- 11：20 講演4 「カウントダウン・メルトダウンな日本」
船橋洋一（日本再建イニシャティブ理事長）
- 12：00～13：20 休憩
- 13：20 講演5
「大気海洋拡散シミュレーションと情報発信問題—現場科学者からの問題提起」
高橋桂子（学術会議連携会員、独立行政法人海洋研究開発機構
地球シミュレータセンタープログラムディレクター）
- 14：00 講演6 「科学社会学の観点から構造災を問う—制度化された不作為」
松本三和夫（東京大学教授）
- 14：40 講演7 「学術会議の取り組み」
大西隆（学術会議会長、慶應義塾大学教授）
- 15：20～15：30 休憩
- 15：30 パネル討論
司会：今田正俊
パネラー：講演者および永原裕子（東京大学大学院教授）、
小出重幸（科学ジャーナリスト）
- 17：40 閉会挨拶
萩原一郎（学術会議会員、明治大学教授）

<問合せ先>

今田正俊（東京大学）

E-mail: imada@ap.t.u-tokyo.ac.jp、Tel: 03-5841-6805

萩原一郎（明治大学）

E-mail: ihagi@meiji.ac.jp、Tel: 03-5343-8377